金山野菜のブランド力さらに高めよう！

金山活粋野菜倶楽部実績報告会
にら部会 2018年度「大高根農場記念・山形県農業賞」受賞

ご両親からひとこと

ひなたはお人形遊びが好きで、
慎太郎はつかまり立ちができるようになって、
いつの間にか立ち上がっています。
二人とも思いやりのある、
優しい子に育ってほしいです。

うちのめごたま

稲沢地区
丹 ひなたちゃん 3歳
慎太郎くん 8カ月
お父さん 丹 良平さん（26歳）
お母さん 葵さん（27歳）

JA かねやま KANEYAMA
人と農と自然と調和へ
2019.3.No.445
組合員とJA・地域を結ぶコミュニティ広報Family

金山町農業青申会第42回総会

金山町農業青申会第42回総会が２月６日、JA金山会議室で開かれました。同会は、農家簿記の記帳を通じて農業経営の実体を正確に把握し経営指導を求めると同時に、適正な青色申告で生活向上をめざす組織。42年の歴史があり現在の農家会員数は146人です。

税理士協議派遣制度活用など承認

平成30年度の組織活動として、税理士協議派遣制度導入から４年目で、税理士による決算書と申告書等の検証を受け提出された実績が109件と、前年より６件増加。平成31年度は10月から消費税10％への引き上げがあること、また、最も身近な所得税について、一層、税法内容や仕組みを理解し適正な申告と節税に努めるため、税務研修会や講習会の開催、税理士協議派遣制度の活用、税理士によるe-Tax（電子申告）代理送信推進などの事業計画を決めました。総会終了後は税理士による税務研修会で理解を深めました。

適正な青色申告にむけ事業計画などを承認した金山町農業青申会第42回総会

中古農機 売ります！買います！求めます！

農機センター ☎52-2356
使わない農機ありましたら連絡下さい。

希望者多数の場合は抽選となりますが、3月20日㈬を締切り日とさせていただきます。

新酒「稲露」など販売開始

稲露 立山 立山梅酒 酒の郷

金山産「出羽燦々」などの酒米を使用した新酒が好評です。芳醇な味わいをぜひご賞味ください。贈答用としてもどうぞ。

お問い合わせ・お買い求めはJA金山購買部生活課（電話52－2012）まで。

理事会報告

● 12月19日 第10回

1．平成30年11月末事業実績並びに平成31年３月末収支見込み承認
2．平成29年産米の最終精算及び平成30年産うるち屑米等の精算承認
3．資産査定要領及び資産の償却・引当基準の一部変更承認
4．平成30年度上期監事監査の回答及び全国監査機構監査期中Ｉにおける主要指摘事項承認
5．職員への年末手当支給承認

《報告》

① 平成31年度職員採用試験（第３回）の経過
② 平成31年新年祝賀会への参加
③ 平成30年度部門別担当役員との事業検討会の開催
④ 年末年始における業務体制

● 1月24日 第11回

1．大口貸出先状況報告承認
2．平成30年12月末事業実績（ＡＬＭ委員会報告）並びに３月末収支見込承認
3．マネー・ロンダリングおよび反社会的勢力等への対応に関する規程類の改正等承認
4．共済規程の一部変更承認
5．平成30年度全国監査機構監査期中Ｉの主要指摘事項に対する回答承認
6．組合員の加入・脱退（権利の移動）承認

《報告》

① 事業計画策定に向けての平成30年度部門別役員との事業検討会
② 全国監査機構期中監査Ⅱの日程
③ 元旦貯金の地区別実績
④ 反社会的勢力等との取引排除にかかる対応状況
⑤ 第12回後配出資増資引受の依頼
⑥ 監事が農協等の会計監査人予定者の選定において留意すべき事項
⑦ 自主検査の実施・改善状況報告及び事務ミス等の発生状況
⑧ 山形県常例検査における指摘事項

あとがき

先日、ＡＩ・人工知能を使って薬剤師の服薬指導を支援するシステムが開発されている、というニュースがありました。ＡＩは他にも掃除ロボットや自動車の自動運転など多くの分野で利用されています。

世の中の技術は加速度的に進歩していますが、それによって生活が便利になるのか、ＡＩと仕事を取り合うようになるのか、ＡＩに使われるようになるのか。面白いところです。

（山大）

コラム 農協人力車－「協同」⑳ 世の中の「小さな重み」

◆世の中には、目立たずとも堅実な歩みを以て、全体を支えているものがある。その小さな重みを大切にする、小さな感謝のつながりは、いずれ光を放ち次のステップへと進む。時間の尺度にあらず、意志と現実の成果という足跡を刻んで。

◆小さな重みであるにせよ、確かに存在感を示す「もの」や「こと」。様々な情報の陰に隠れても、自然界の猛威にさらされても、競争に打ちひしがれても。小さな重みは逃げも隠れもせず、しっかりと出番に備えている。

◆人間は悩む力を持っている。悩むことには苦しみも伴う。しかし、悩める力の別の方にすごい「もの指し」もある。苦しみや悲しみにしっかりと対峙し、一つひとつの「こと」に立ち向かう行く末に待つ幸福感。この世の小さな重みは、努力と笑顔を裏切らない。

No.445号 平成31年3月11日発行 編集･発行／金山農業協同組合
〒999-5402 山形県最上郡金山町大字金山456-30 TEL.0233-52-2011（代）

VEGETABLE OIL INK JAかねやま広報は、再生紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。

販売額前年比8%増 金山活粋野菜倶楽部

金山活粋野菜倶楽部実績報告会.平成30年11月9日.金山町農村環境改善センター

平成30年度の野菜については、天候の変動があった中、野菜6品目全体で平成29年度比7・9%増の2億5269万円（平成30年10月31日精算現在）の販売実績を挙げています。金山活粋（いきいき）野菜倶楽部（くらぶ）が開いた実績報告会での内容を基に報告いたします。また、金山活粋野菜倶楽部にら部会が、平成30年度大高根農場記念・山形県農業賞を受賞されましたので紹介いたします。（3ページ）

年間通して高値取引

販売数量は天候が生育面に影響し平成29年度比94・1%。販売金額では単価が平均26・4%増と年間を通して高値で推移、金額も1855万円程上回りました。

今後に向けた品目ごとの課題等を記載します。

1.「キュウリ」は等級・規格の個人格差の是正や病害虫の適期防除の徹底、草勢低下時の管理。

2.「ニラ」は更なる金山産ブランドの強化と二番刈り以降の安定出荷、秋刈品種の新規選定。

3.「ミニトマト」は継続的な管内巡回の実施や栽培技術体系の確立、肥培管理の再確認。

4.「シシトウ」は適期管理・定植や潅水の徹底による初期生育確保、病害虫防除の徹底、草勢判断に基づく管理技術の向上。

5.「ネギ」は等級・規格の個人格差の是正や軟白部確保とボケ防止、軟腐病対策。

6.「アスパラガス」では育苗技術の向上と健苗育成、株養成技術の確立、春の需要期の出荷拡大、等です。

市場担当者からは「一層、品質管理を徹底し、金山ブランドを高めてほしい」等、要望を受けています。

2018年度（平成30年度）大高根農場記念・山形県農業賞

金山活粋野菜倶楽部にら部会

「平成30年度大高根農場記念・山形県農業賞」を受賞した金山活粋野菜倶楽部にら部会の皆さん

最上広域統一ブランド「達者de菜」販売額10億円超えに寄与

金山活粋野菜倶楽部にら部会は、5月から10月の長期安定出荷で信頼を確保し、最上広域統一ブランド「達者de菜」販売額10億円超えに寄与したとして、平成30年度の大高根農場記念・山形県農業賞を受賞しました。担い手育成や地域貢献へ、今後とも期待が高まります。

「ニラは月給！米はボーナス」

金山町の主な農業は水稲でしたが、1981年（昭和56年）よりニラが転作振興作物として指定され拡大してきました。

生産振興を進める上で、シーズン中途切れることなく収穫・出荷ができるため「ニラは月給！米はボーナス」を合言葉に、部会では早くから播種機・定植機を導入し、生産者数・栽培面積の拡大をはかりました。

現在、農業者の高齢化が全国的に問題で、当部会も農家組合員の年齢層は導入した当初より高くなってきましたが、現役で体の続く限りニラ栽培を続けたいという部会員が多く、若い農業者も励まされています。

最上広域「達者de菜」10億円超え

JAの枠を超えた広域組織が1993年（平成5年）に発足し、最上地域から生産されるニラを統一ブランド名「達者de菜」と命名。以降、広域が一体となり生産・販売活動を展開し、値決め契約や加工ニラの取り組みも相まって平成30年度は最上広域野菜振興協議会ニラ部会での販売金額は10億円を超えました。最上管内のニラ生産者数は現在300人を超え、県内でも一大品目となっています。

「町の転作作物からスタートして37年。受賞の喜びをニラ生産者と分かち合いたい。最上地域、そして県内の一大品目にまで成長できたのは、先輩方や関係者の皆さんのおかげ。高齢になるまで農業に携われる、また、後継者も活粋と活動することが可能なニラ部会の伝統をこれからも守り続けたい」と阿部直部会長は力を込めます。

平成31年産〈2019年〉「稲作」の方向

「契約栽培米」98%目標　環境保全型13年目への取組み

平成30年産の全国主食用米等の生産量は、平年ベースとした場合の生産量に比べて約8万トン超過していました（作況100とした場合の生産量743万トン＝全中試算。生産量見通し735万トン）。実際は主食用米の収穫量が約733万トンと、主産県の作柄が良くなかったため落ち着いた状況になっています。米の需給と価格の安定、生産者所得の確保のために一層の米消費拡大や水田フル活用等、確実に動く（売れる）米づくりに取り組んでゆくことが大事になります。このような状況において、更なる契約栽培米産地をめざすJA金山は1月29日、JAで「第26回地域稲作推進検討会」を開き、平成31年産「稲作」を確認しております。

平成31年産（2019年産）「稲作」の方向を確認した地域稲作推進検討会

山形県：平成31年産米「生産の目安」昨年比増

山形県は平成31年産米の市町村別「生産の目安」を昨年12月21日に発表、県全体で昨年に比べ1・7%増加しています。金山町は全体で約15ヘクタール作付面積が増えています。消費者・生産者ともに喜べる米づくりに取り組んでいるわけですが、30年産同様「備蓄米」「加工用米」等の取り組みは継続となります。

JA金山：「売れる米づくり」へ「契約栽培米」比率98%目標

JA金山がめざす米づくりは、地域特性を生かし産地指定に応（こた）える「契約栽培米体制」の向上です。米消費量の減少による需給緩和や天候不順等、取り巻く環境は厳しさを増していますが、米情勢に左右されない信頼産地と売れる米づくりを契約米により確立し、安定した地域稲作・金山米づくりに取り組んでゆくものです。

このため平成31年産米においても「契約栽培米」比率98%を目標にしています。

「環境保全型稲作」ベースの栽培体系

実需者である販売契約先から様々な要望等を受けていますが、平成31年産の主なポイントとして①ミニストップ米「はえぬき」の品質向上と安定生産、②酒米の更なる品質向上体制と産地づくり、③契約取引栽培による「ヒメノモチ」産地づくり、等が挙げられます。

栽培体系は今年で13年目になる「環境保全型稲作」をベースとして「あきたこまち」「はえぬき」「酒米」「モチ米」「つや姫」の5品種体制を基本にしています。

販売計画数量は備蓄・加工米・その他うるち米を含めた全体で6万5千俵、作付見込面積は865ヘクタール程（1／25現在の種子申込数量換算）となっています。「酒米」・「つや姫」は現状維持、「雪若丸」は増加、備蓄米・加工米は前年並みです。

米の食味コン KOME SHOKUMI

「つや姫」部門1位　今田政男さん（上台）2年連続

米食味コンクールの「つや姫」部門で最優秀賞に輝いた今田政男さん

やまがた攻めの米づくり日本一運動最上地域本部が開いた米の食味コンクールで、上台の今田政男さんの「つや姫」が最優秀賞に輝きました。今田さんは「つや姫」部門で2年連続、また、金山産「つや姫」は3年連続の最優秀賞受賞となっています。

食味コンクールは昨年12月13日、県最上総合支庁で開かれ、「はえぬき」部門に30点、「つや姫」に41点の合計71点が出品されました。審査は、品質・食味分析機器で玄米のタンパク質含有率などを審査し、各部門上位3点について実食による食味官能審査を実施。順位は投票により決定しました。

「栽培体制」万全に

「ミニストップ米」2万3500俵

契約栽培米の品種と数量については、環境保全型稲作によるミニストップ米が2万3500俵。丸紅を通じ23年目となる契約栽培で、「あきたこまち」2千500俵と「はえぬき」2万1000俵体制です。販売数量確保と迅速な生産販売への対応が必要です。自然環境にやさしい稲作を主体に一層の産地確立に取り組んでいます。

「酒米」1万3000俵

「酒米」は「出羽燦々」1万俵と「美山錦」他3千俵、合計1万3000俵体制です。需要に適応する良質米の生産と品質向上をめざし酒米の里づくりを進めます。

「モチ米」3500俵

今年も埼玉県「中央軒煎餅（千田みずほ）」との契約栽培と新潟県「㈱越後製菓」や県内需要先と販売契約を結び「ヒメノモチ」3500俵の契約栽培米体制となります。「もち加工米」も継続します。

「つや姫」5000俵「雪若丸」7000俵

山形つや姫・雪若丸ブランド化戦略推進本部が定める適地マップ・栽培マニュアル・出荷基準等に基づいた特別栽培・生産工程管理による米づくりです。「つや姫」は10年目の取組みで食味重視、5000俵の生産体制です。「雪若丸」は山形県版GAPへの取組みで7000俵の体制です。安定栽培技術確立に努めてゆきます。

一人ひとりの力がよりよい産地をつくります

契約栽培米の数量は5万2000俵となり、備蓄・加工米1万2000俵を除いた販売計画数量の合計5万3000俵に対して、契約栽培米比率が98%になります。

一人ひとりの力がよりよい産地をつくります。平成時代最後の31年、そして新しい年号の始まりの年、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

女性部「いけ花講座」大好評
組合員の長倉さん「門松」JAへ

豊かな自然と温かい人間性にあふれる金山町は、人と農と自然が調和するまさに美しい町。時として厳しい環境に見舞われることはあっても対応に優れ、次へのステップにしてゆく技術や営み、支え合いが確かな町であると思います。特段意識しなくても生活に活力と安定をもたらしてくれているのが日々の思いやいろんな活動等です。今回、年号が平成とつく最後の年・年度の始まりにあたり、よりよい１年を願っての清々しい話題や活動を紹介いたします。

自分らしく・清々しく「いけ花講座」ＪＡ金山女性部

見事な迎え花

ＪＡ金山女性部が開いた「お正月のいけ花講座」には13名が参加して「華道栖草流」（立真形）を参考に正月の花をいけました。

講師は、元ＪＡ金山職員の柴田静香さん（七日町）です。柴田さんが花材である金竹、若松、千両、葉牡丹、白菊の意味をレクチャー。正月の花は流派にこだわらず自分らしくいけてくださいとのアドバイスに、参加者はそれぞれ持参した花器へバランス等に気を配りながらていねいにいけてゆきました。

和気あいあいと楽しみながら完成させたいけ花を眺めて、参加者は「とても清々しく正月を迎えられる」と喜んでいました。床の間や玄関の迎え花として、また、洋間や茶の間、カウンター等に飾りました。

ＪＡ金山女性部「いけ花講座」。参加者の皆さんから大好評でした（平成30年12月26日。ＪＡ金山購買部生活課で）

荒屋の長倉博明さん 門松一対ＪＡ玄関に

荒屋の長倉博明さん（66）が昨年12月19日、門松一対をＪＡ金山に飾ってくれました。全国的に災害の多かった平成30年でしたが、平成最後の年になる２０１９年がよりよい一年になるよう願い、長倉さんが丹精込めて手づくりした逸品です。

軽トラックの荷台に載せて運んできた長倉さん。ＪＡの玄関に一対を飾り、出迎えた柴田義正組合長や職員と一緒に皆さんの健康や繁栄を祈願。ＪＡに訪れた組合員から「とてもステキな門松で明るい気持ちになる」と好評の声が聞かれました。

長倉さんは「農業は自然と共にある。いい一年になるよう願っている」と笑顔で話されました。

長倉さんが音頭をとり皆さんの健康と繁栄を祈願した

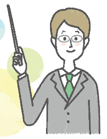
手づくり門松一対をJAに飾ってくれた
長倉さん（右）と柴田組合長

射手座（11/23～12/21）
【全体運】感情的になりやすい期間。特に家族など、身近な人に口うるさくしないよう、冷静に。開運には手料理を作って
【健康運】健康を気にし過ぎ。気楽に考えましょう
【幸運を呼ぶ食べ物】セリ

山羊座（12/22～1/19）
【全体運】人との交流からうれしい刺激をもらえる予感。普段付き合う機会の少ない相手ほど、斬新な驚きを与えてくれそう
【健康運】運動するのに良い月。何か目標を立てて
【幸運を呼ぶ食べ物】カブ

生涯楽しく生きる施策と実践、地方から発信！
思い込み捨て、真実から見えてくるものとは

山形県立新庄南高等学校金山校の創立70周年を記念する講演会で、里山資本主義などの著書がある藻谷浩介（もたにこうすけ）氏が、地方で生きる意義などについてお話しされました。参加した全校生徒や町民ら約１５０人が、共に地域振興のあり方などを学びました。



「これからの時代を地方で生きる～都会との比較を通して～」

「里山資本主義」などの著書がある日本総合研究所主席研究員の藻谷浩介氏が、演題「これからの時代を地方で生きる～都会との比較を通して～」について約１時間30分講演されました。藻谷氏は平成の合併前に３，２００市町村のすべて、また、海外90カ国を自費で訪問し、地域の特性を多面的に把握され、地域振興や人口成熟問題、観光振興などに関して研究や著作、講演を精力的に行っていらっしゃる方です。（講師プロフィールより）

世の中、思い込み多い事実を知ること大事

藻谷さんは冒頭、金山型住宅は世界に誇る住宅建築であると評し、町民の暮らしに根差した伝統・伝承のすばらしさを称賛され、次のとおり話を進められました。

『人間は思い込みで生きる風潮があり、「思い込み」が世の中を変えてしまう懸念もある。何事も事実を知ることが大事。事実を知らない・真実を確認しないものの見方、思い込みで世の中をつくってはいけない』。例として『実際の空き家の数は田舎より都会の方が多い。コンビニの品物は田舎と都会でほぼ同じで近くにスーパーや田畑がある田舎の方が便利。殺人事件数はテレビなどで頻繁に報道され増加しているイメージだが実際は全国的に減少している。失業率は山形をはじめ主に日本海側は低くむしろ都会の方が高い傾向。生活保護率でも都会の方が働ける場所や機会が多いと思えるが、山形で生活保護を受けている割合は東京の４分の一ほどである』等、調べてみると実際の中身が一般的に思われているのとちがう場合があるとして「事実確認・事実認識」からの思考・検討・対応などが重要だと強調されました。

高校生や町民を前に記念講演を行う藻谷さん
（平成30年10月27日、金山校体育館）

超高齢化が進む都会 次世代対策が鍵握る田舎

藻谷さんは日本の少子高齢化に関して、「約４年９カ月の間に75歳以上の人口割合が仙台で約17％、東京が約22％と高くなっている、人口増加が顕著で経済的に豊かに見える都会の実態は、出生率が低く今後75歳以上の高齢者層が増えてゆく超高齢化社会へと進んでゆく」として、将来にわたり施設面や財政面等で課題が多いと指摘。一方、金山町では「75歳以上の高齢者層はすでに減少傾向（約６％減少）に入っていて、言わば都会で20年、30年後にくる超高齢化社会を先取り（経験）した地域と呼べる、問題は働き手となる年齢層等も減少していること」と話され、新たなステージに向けた次世代・担い手への対策が重要になると話されました。

「人生ステージ」都会より田舎長い

「人生90年時代を想定した社会をつくる必要がある」と藻谷さん。人生を野球に例えれば「都会では企業等を退職した後（６回裏）からはやれることが少ないが、田舎では田畑等、地域の資源が豊富で長く（９回裏まで）やれる、取り組んで行ける能力がある。都会の方がよいという思い込みをなくして事実を見て生きてゆくこと。これから先は地方を大事にする会社を見分けること。そして、若者が地方に残り育ち担ってゆく仕組みの構築が重要になる」、と期待されました。

楽しく働き続けられる地方を誇りに

高校生や町民を前に、時折力強い声で講演される藻谷さんの姿に、地域振興への並々ならぬ思いを感じました。藻谷さんが田舎の方が失業率や生活保護率等が低い理由を生徒に質問した際、指名された男子生徒が「地方の方が生涯継続して楽しんで働けるから」と答えていました。助け助けられる地域社会、楽しく仕事が続けられる地方の特色を感じ取っている若者の声、生徒のある面真髄をついた言葉に嬉しさと頼もしさがこみ上げてきました。

JAの総合事業や米検査を学習する生徒
（平成30年11月14日、金山中学校）

職業観育成へ・金山町職業体験学習

JA金山 米検査 実演

「金山町職業体験学習2018」が金山中学校で開かれ、地元の企業や技術者が一堂に会したインターンシップにより、地域の魅力の再発見や職業観の育成などに貢献しています。

警察や老人ホーム、建設会社、銀行、ホテル等、町内や新庄市から17の団体が出展。金山中の１年と２年、新庄南高金山校１年の生徒計125人に日頃の仕事を体験・指導しました。

米の庭先集荷から米検査体験

生徒は６人から８人の班に分かれ各ブースでプロの仕事を学びました。JA金山は、JAの役割や販売など総合事業を資料で説明。実際の体験メニューとして米の庭先集荷から米の検査業務を紹介。本物の米袋（１袋30キロ）をベルトコンベアでトラックに積む作業やうるち米・モチ米・酒米を検査し米に等級をつける作業を指導いたしました。

生徒たちは１等米と２等米の見分け方や米の格付けが農家にどう影響するのか等について特に興味を示し、担当者は稲作管理のポイントや天候との関わり等をていねいに説明、生徒たちは熱心に聞いていました。

水瓶座（1/20～2/18）
【全体運】何事も急がず、マイペースにやることで、物事がスムーズに運ぶはず。結果より、充実感を優先するとグッド
【健康運】胃腸に優しい食事にすると運気好転へ
【幸運を呼ぶ食べ物】シラス

魚座（2/19～3/20）
【全体運】自信が芽生える星回り。さまざまな分野に挑戦したくなるので、動いてみて。意見やアイデアの発表も正解
【健康運】話題の健康法に注目を。体質に合いそう
【幸運を呼ぶ食べ物】ワカメ